

令和5年度岩手県環境保健研究センター研究評価実施結果

1 目的

成果を重視した効果的・効率的な試験研究の推進を図るため、「岩手県試験研究評価ガイドライン」及び「岩手県環境保健研究センター機関評価及び研究評価実施要領」に基づき、研究評価を実施し、研究計画の変更や見直し等に活用する。

2 開催日時等

- (1) 日時 令和5年11月6日(月) 13:30~14:30
- (2) 場所 岩手県環境保健研究センター 大会議室

3 評価対象研究課題

2題(事後評価1題、事前評価1題。)

4 評価基準

	A	B	C
【事前評価】 (新規課題に対して実施)	重要な課題であり、優先的に取り組む必要がある	有用な課題であり、早期に取り組む必要がある	解決すべき問題等があり、今後の検討を必要とする
【事後評価】 (終了課題に対して実施)	研究成果は目標を十分に達成した	研究成果は目標をほぼ達成した	研究成果は目標をかなり下回った

5 評価協議会構成員

氏名	所属等
坂田清美	学校法人岩手医科大学名誉教授 公益財団法人岩手県予防医学協会予防医学部長
石川奈緒	国立大学法人岩手大学工学部准教授
渋谷晃太郎	公立大学法人岩手県立大学研究・地域連携本部地域連携コーディネーター
中村克典	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所東北支所産学官民連携推進調整監
村上賢二	国立大学法人岩手大学農学部教授
米倉裕一	地方独立行政法人岩手県工業技術センター理事兼地域産業技術統括部長

6 評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

(1) 医薬品・生活関連物質の環境実態及び環境リスク解明に関する研究（事後評価）

研究課題	1	医薬品・生活関連物質の環境実態及び環境リスク解明に関する研究（R2-4）
研究目的・背景	高分解能 LC-MS/MS を用いて、医薬品・生活関連物質（PPCPs）の環境実態を把握するとともに、国環研、地環研、国内外の大学等と共同で分析法の開発や環境リスクの解明を目指すもの。	
研究内容	<p><研究①>日韓共同研究：PPCPs の環境実態の把握、日本と韓国における現状の比較等を行う。（国立環境研究所、兵庫県環境研究センター、釜山大学との共同研究）</p> <p><研究②>国環研、地方環境研究所とのⅡ型共同研究：一部の PPCPs（→環境中濃度が PNEC を超過した事例のある物質）を対象とした環境実態調査、及び高分解能 LC-MS/MS による網羅分析法の開発を行う。</p> <p><研究③>岩手大学との共同研究：動物用医薬品の分解物等の環境影響を把握するために、高分解能 LC-MS/MS を用いて分解生成物の分析、構造の推定等を行う。</p>	
評価結果	<p>○総合評価 A（6人）・B（0人）・C（0人）</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的にも先進的な分析・解析方法により様々な化学物質の環境中の存在を明らかにする有益な研究であり、十分な成果が得られている。 ・研究は目標を達成できていると評価している。今後もこの研究成果は応用可能であると同時に、研究を発展させる必要性もあると考えられる。さらなる研究の発展を期待したい。 ・抗菌剤の環境残留性が確認できたことは高く評価。対策として吸着剤の検討がさらに必要。 ・環境中での動態が不明な PPCPs の検出、残留実態解明に取り組み、また検出された物質の除去方法の検討にも踏み込んで、期間内に十分な成果を上げた。多種にわたる PPCPs の実態解明に関する研究は緒に就いたところであり、さらなる研究の展開を期待する。 ・大きな成果が得られている課題と思われる。一方、この成果を県の水質管理にどのように活用できるかについては、新たな課題で検討すべきものと思われる。今後の発展を期待する。 ・本県河川の PPCPs の実態把握とその一種マクロライド系物質の除去法を開発したことを高く評価します。今後、他物質の同定及び除去技術の開発に期待します。 	

センターの対応方針	<p>【総合判定結果】</p> <p>I 研究成果は目標を十分達成した</p> <p>本研究により、未規制化学物質の環境残留実態を把握し、環境負荷低減のための除去方法を確認できたことは、新規環境汚染物質対策の策定、さらには水質事故対応体制（環境影響、原因究明）の充実につながる成果であり、所期の目的を十分達成できたと考えます。</p> <p>引き続き、関係機関と連携し、分析手法の拡充・普及と新たな解析手法の開発に向けた研究を進め、成果については学会等で広く発信していきます。</p>
-----------	--

(2) イヌワシの繁殖力回復のための保全生物学的研究（事前評価）

研 究 課 題	2	イヌワシの繁殖力回復のための保全生物学的研究 (R6-R10)
研究目的・背景	<p>個体数の減少が問題化している県内のイヌワシについて、個体増殖につながる新たな保全施策に活用できる知見を得ることを目的として、各つがいの繁殖事例や遺伝子に関するデータを集めて探索的に分析し、繁殖成績に影響する要因や特性を明らかにする。</p>	
研究内容	<p>繁殖状況モニタリング（巣内ビデオの解析を含む）や映像を用いた個体識別調査を行ない、最新の繁殖状況の把握と事例の収集を進めるとともに、前課題より取り組んできた繁殖成績の解析を産卵期前も含めて拡張し、行動圏内の環境の時間的変化、巣の構造、DNAから予想しうる近縁度などの情報も加えて、繁殖に影響する要因の探索的検討を行なう。</p>	
評価結果	<p>○総合評価 A（5人）・B（1人）・C（0人）</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県として取り組むべき研究課題であり、有益な研究成果を期待します。 ・重要性、緊急性の高い研究であり、優先的に取り組むべき課題と認める。さらなる研究ネットワークの拡大等に取り組む必要がある。 ・重要な研究であり、継続して実施していただきたい。 ・全国的にも注目されるイヌワシの保全に関する研究について、継続性を確保しつつ新規な視点を提供している。研究の着実な進展と保全に向けた具体的な方策の提示が期待される。 ・特に本県が長年取り組んできたイヌワシの研究であり、是非絶滅危惧種が保全出来るよう進めて頂きたい。 ・重要な課題であるが、長期にわたる研究を実施しているにもかかわらず、今期の研究目標もイヌワシ減少の要因解析に終始しているように思われることから、より実地的な研究に期待する。 	
センターの対応方針	<p>【総合判定結果】</p> <p>1 研究計画のとおり実施</p> <p>本研究は、本県のみならず国内においても絶滅の危機にあるイヌワシの保護・繁殖を目的とした研究です。これまでの研究で得られた知見を総合して、イヌワシの繁殖成績向上に向けた具体的な方策が得られるよう研究を進めるとともに、関係機関とも協力のう え精力的に保全対策に取り組んでいきます。</p>	